

夢見ヶ崎動物公園再整備計画 (案)



目次

1. はじめに	1	8. 施設配置計画	
2. 現況の整理		8-1. 緑と人が出会う	16
2-1. 夢見ヶ崎動物公園の現状	3	8-2. 人と人が出会う	17
2-2. 利用実態	4	8-3. 生きものと人が出会う	19
2-3. 連携協働の取組	5	9. 概算工事費用と段階整備概要	23
3. 夢見ヶ崎動物公園の課題	6	10. 事業手法	24
4. 再整備の方向性	7	11. 運営手法	25
5. 目指すべき将来像	8	12. 整備効果	26
6. 再整備の基本的な考え方		13. 事業スケジュール	27
6-1. 再整備の必要性と基本的な考え方	9		
6-2. 「いのちを感じる」とは	10	巻末 コレクションプラン	
6-3. 「いのちを感じる」環境づくり	11		
6-4. 「いのちを感じる」プログラム	12		
7. いのちを感じる空間構成と主な施設			
7-1. 全体の空間構成	13		
7-2. 動線	14		
7-3. 植栽の考え方	15		



1. はじめに

1

背景と目的

夢見ヶ崎動物公園（以下、「夢見」という。）は樹林に囲まれた標高35mの加瀬山に位置します。広場、動物、植物、古墳などの歴史資源を有する地区公園です。

平成30（2018）年3月に策定された「夢見ヶ崎動物公園基本計画」では、公園の特色を活かしながら、幅広い世代・分野の人々がつながり、生きものへの理解を通じてのちの大切さや生物多様性と恩恵を学び、地域に愛され、賑わいをもたらす持続可能な夢見の実現を目指して、**将来像や基本コンセプトなどを定めています。**

近年、新型コロナウイルス感染症による影響や脱炭素社会実現に向けた取組、オープンスペースの多様な利活用ニーズの高まりなど、様々な社会変容が見られたことから、令和4（2022）年8月に「夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方」を定めて再整備の内容を見直し、これをもとに市民の意見聴取、民間事業者との対話を重ね、令和6（2024）年度に「夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子」を決定しました。

本計画は、これを踏襲しながら、動物公園としての役割を改めて見直し、地域の拠点としての新たな可能性についても考慮し、**動物展示施設および公園施設の配置、より具体的な整備内容、事業推進や管理運営の手法などについて示しています。**

整備は直近5年間の視点に加え、中長期的な視点も踏まえて行います。

整備開始 ～5年間の視点	飼育環境や魅力を向上させる整備 ・サル舎 ・小動物及び家畜舎 ・インコ舎 ・バックヤード（動物病院・調理施設） ・各種設備 など
中・長期的 視点	動物飼育状況に応じた整備 ・新しい動物の導入検討 ・飼育を終了する種の将来的な動物舎の活用方法の検討 ・効果的・効率的な管理運営を見据えた機能拡張

概況

昭和25（1950）年に開園され、昭和47（1972）年に動物の飼育・展示を開始し、昭和49（1974）年4月に公益社団法人日本動物園水族館協会（以下「JAZA」）に加盟し動物園としての第一歩を踏み出しました。標高35mの丘陵地（加瀬山）に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のようになっています。市内で唯一の動物公園として、また、古墳など歴史資源を有し、春のお花見・散策・遠足・地域の行事など四季を通じて幅広く利用されています。



遠足利用により賑わう広場空間

【概要】

所在地 : 幸区南加瀬1-2-1
公園面積 : 6.6ha
公園種別 : 地区公園

開園日 : 昭和25（1950）年4月1日
展示開始 : 昭和47（1972）年11月22日
展示動物 : 51種279点（令和7(2025)年12月末時点）
入園料 : 無料



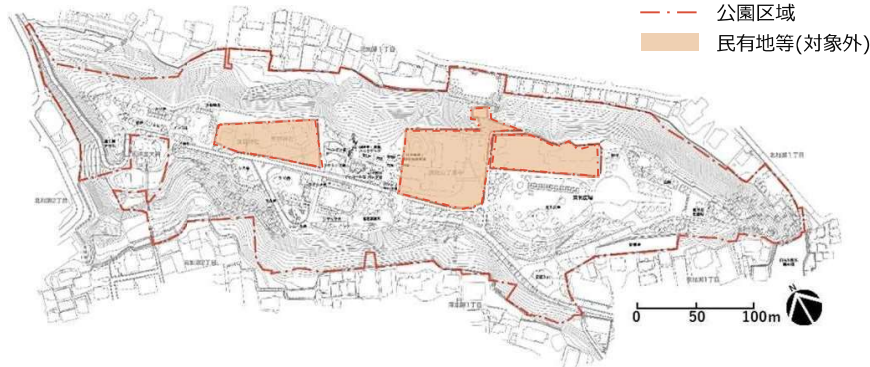
※川崎市ホームページより

1. はじめに

2

対象区域

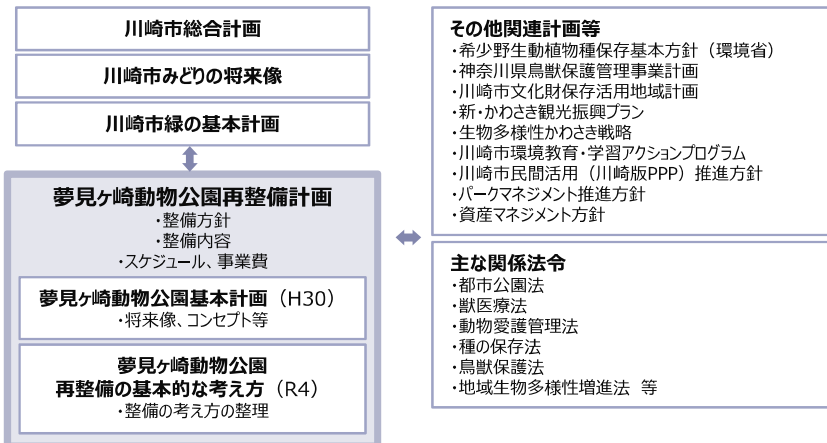
本計画は、民有地などを除く、**夢見ヶ崎動物園基本計画（6.6ha）**とします。



上位関連計画

本計画は夢見ヶ崎動物園基本計画をはじめとする**関連計画との整合を図りながら策定**するものとします。

■ 上位関連計画



検討の経緯など

平成30（2018）年度に「夢見ヶ崎動物園基本計画」を策定した後、コロナ禍やアニマルウェルフェア※への関心の高まりなど社会変容に合わせた計画の見直しを行い、令和4年度に「夢見ヶ崎動物園再整備の基本的な考え方」をまとめ、「動物福祉とふれあいなどに関わる検討」としてコレクションプラン作成などに着手、**令和6年度に本計画のベースとなる「夢見ヶ崎動物園再整備計画骨子」**をとりまとめました。

年度	～R3 （～2021）	R4 （2022）	R5 （2023）	R6 （2024）	R7 （2025）	R8 （2026）	R9 （2027）	R10 （2028）
再整備に係る取組・検討	H30年3月 夢見ヶ崎動物園基本計画					R8年度～ 夢見ヶ崎動物園再整備計画		
	R2 主要課題調整 飼育種数適正化に向けた考え方等を整理	R4 再整備の基本的な考え方 かわさき市民アンケート	来園者アンケート	かわさきフェア	かわさきフェア 来園者アンケート	来園者の利便性向上等に資する施設整備 ・パークセンター ・中央エリア ・東側エリア ・動物舎		
再整備に係る検討						再整備に係る検討 ・コレクションプラン ・アニマルウェルフェア※へ配慮した施設配置 ・市民や民間事業者との協働 等		

※**アニマルウェルフェア**：飼育および展示における個々の動物の身体的および心理的状态のことをいう。日本動物園水族館協会（以下、JAZAという。）のアニマルウェルフェア規程では、会員および園館職員は動物の飼育管理に当たり、栄養、環境、健康、行動、精神状態の5つの領域に関して科学的根拠に基づき定期的にアニマルウェルフェアを評価し、定められたアニマルウェルフェア基準に基づいた動物の飼育管理及び施設運営を行わなければならないとしている。

計画期間

再整備計画の対象期間は、**計画策定から概ね10年**としますが、飼育動物の寿命などを鑑み柔軟に対応する必要があります。

2. 現況の整理

3

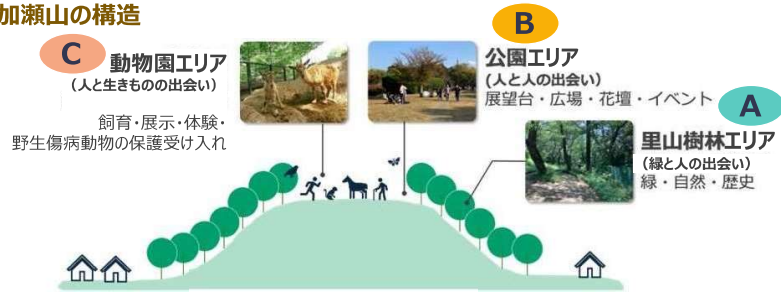
2-1 夢見ヶ崎動物公園の現状

立地特性

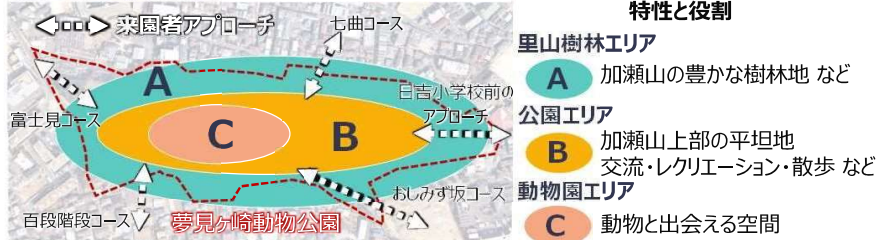
標高35mの丘陵地(加瀬山)に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のような姿で、**里山樹林・公園・動物園の3つのエリアで構成され、多様な特性を有しています。**

自然的特性	<ul style="list-style-type: none"> ・標高35mの丘陵地 ・外周斜面は里山樹林（まとまった緑） ・市内唯一の動物公園 ・鳥獣保護区に指定 ・年間を通じて花や草木、昆虫、野鳥など四季折々の自然を体感
社会的特性	<ul style="list-style-type: none"> ・富士見デッキなどからまちを一望できる(天気が良ければ富士山が見える) ・幸区市民健康の森に指定 ・古墳、国宝「秋草文壺」の出土、太田道灌、戦時中の土取り工事、戦没者慰霊塔など歴史的資源が豊富 ・敷地内の社寺などの民有地と共存

■ 加瀬山の構造



現況空間構成



現況施設

現在園内には、次のような**公園施設・動物展示施設が配置**されています。



生物多様性かわさき戦略での位置付け

「生物多様性かわさき戦略」では、市街地・臨海部エリアにおける**回廊(コリドー)**における**拠点(コア)**であり、**生物多様性に関する情報の収集・発信拠点**としての役割も担っています。

■ 生物多様性かわさき戦略



2. 現況の整理

4

2-2 利用実態

来園者数

ピーク時(昭和63(1988)年度)の来園者数は60万人を超えていましたが、**近年は10~20万人程度で推移**しています。**花見など春の行楽シーズン(3~5月)及び秋の行楽シーズン(9~11月)に来園者数が増加**する傾向にあります。



利用者のニーズ等

令和6年度に市内で行ったオープンハウス型説明会や、令和7年度から園内で実施しているアンケートでは、以下のような**利用者のニーズ・意見が得られました**。

オープンハウス型説明会 (令和6(2024)年度/参加者=353名)

対象：会場に立ち寄ってくださった方(令和6(2024)年10月~11月)

夢見のパークセンター及び全国都市緑化かわさきフェアのコア会場(3会場)にて、**夢見全体や再整備の取組などについて広く意見を収集**しました。

得られた主な意見

動物飼育に関する方針があるのか疑問に思う

動物のためになるのなら、お金を取ってもいいと思う

以前行ったときは駐車場がいっぱいで帰ることになった

遊べる場所や遊具が充実しているように

計画での対応

コレクションプランの分類の考え方を明確に計画に表記

歳入確保に向けた運営手法について計画に表記

駐車場の効率的・効果的な運用について、引き続き関連事業者と対話を行いながら検討

空間構成において、遊びのエリアを計画に位置づけるよう検討

入園料・収支状況

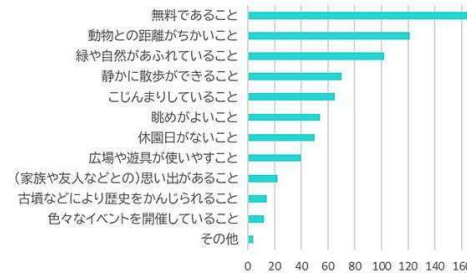
園内に社寺などの民有地や5箇所の出入り口があり、**動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、入園無料で運営してきた経緯**があります。

過去5年間(令和2(2020)年度~令和6(2024)年度)の平均収入額は、一時使用料などにより約16万4千円となっています。

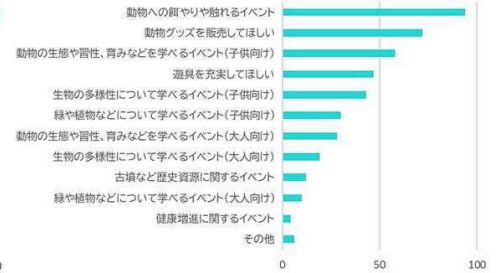
支出額は人件費、飼料、維持・修繕などにより約1億9千5百万円となっています。

来園者アンケート (令和7(2025)年5月~11月/回答数=188) ※以下4項目は複数回答

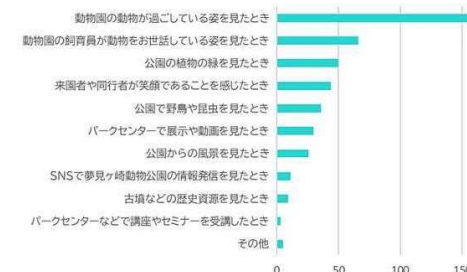
■夢見の魅力



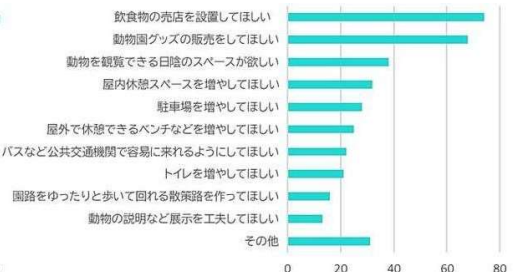
■夢見で充実してほしいコンテンツ



■夢見で“いのちを感じる”シーン・場所



■設備についてのご要望



2-3 連携協働の取組

これまで、サポーターやボランティアの方々、教育機関など**多様な主体と連携した取組**を行っており、**活動のフィールドとして利用**しています。

多様な主体との連携協働

① ゆめみらい交流会

様々なスキルを持った各種団体の強みを活かし、**パークセンターでワークショップや研修会**を実施



ゆめみらい交流会の様子



サポーターと職員による
手作り看板

パークセンターでの活動の様子

④ 野生鳥獣リハビリター

保護鳥獣の給餌・育雛・リハビリ業務などを行う。スキル向上や意見交換を目的とした**勉強会**や**研修会**を実施。



保護動物への給餌の様子

② 夢見ヶ崎動物公園 サポーター

動物園まつりなどのイベントスタッフに加え、夢見のイメージアップにつながるような**広報活動への協力**や**継続的な寄付への協力**



サポーターと職員による
手作り看板



動物園まつりなどのイベント支援

⑤ クラウドファンディング

令和4年に実施し約400人から**約600万円**の**支援**



医療機器の購入

③ 加瀬山の会

園内の植栽管理、花壇活動などを実施



富士通とのコラボによる
アジサイの植樹



季節を伝える演出



小学校、保育園とのコラボによる
花壇の花植え



日本文化の伝承

地域との親和性の向上

① 幸区役所との連携

市政だよりやHP・広報などの協力や区役所で実施する**事業への参加**や**連携**、区役所が保有する**地域資源とのコラボレーション**



市政だより幸区版への掲載

② 日吉出張所との連携

ゆめみZOOテラスの充実や連携施設としてのつながりを表現、**イベントの共催**などに**ぎわいの創出協力**



ゆめみZooテラスの様子

市内外の教育機関・高齢者施設などとの連携

① 保育園・幼稚園との連携

遠足としての利用、いのちを学ぶ**プレ授業**としての**出前授業**などを実施



遠足でにぎわう様子

② 小学校との連携

小学校の学びの場として、**遠足前にzoom**や**出前授業**を実施



授業の資料

④ 高齢者施設との連携

高齢者施設での**オンライン動物園ガイド**や**動物紹介動画の貸し出し**



授業の資料

地域との連携

人の集まる施設での広報

鹿島田跨線橋や鹿島田駅、地域の商業施設など**能動的に情報が伝わるエリア**で**広報**



鹿島田跨線橋での広報

③ 高校・専門学校・大学などとの連携

大学のインターンシップ受け入れ、専門学校や大学の**飼育実習受け入れ**、大学の研究室と協働により実施する**飼育動物の環境エンリッチメント**などの**調査・研究**



東京農業大学との共同研究
猛禽類の飛翔・翼の機能
解明に関する研究

3. 夢見ヶ崎動物公園の課題

6

開園から70年以上が経過し、公園施設の老朽化に加え周辺環境の変化や社会変容による市民ニーズの変化、気候変動などへの対応が必要となっています。

① 社会変容による市民ニーズ等の変化 (市民意見・民間事業者意見の調査)

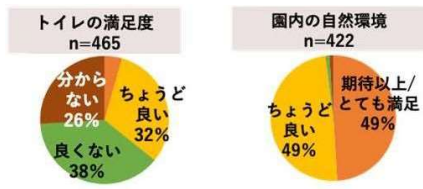
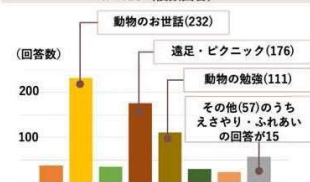
近年では新型コロナウイルス感染症による影響や、オープンスペースの多様な活用ニーズの高まり、さらにはアニマルウェルフェアに対する意識の高まりなど様々な社会変容が見られました。夢見に対する課題やニーズを把握するため、市民や民間事業者からの意見を収集しました。

来園者アンケート (令和5(2023)年度/回答数=619)

対象：来園者(令和5(2023)年11月)

- ・10歳未満の子どもを連れた子育て世代の来園者が多い
- ・約8割が2時間以内の滞在時間 ⇒「気軽さ」が魅力
- ・園内の**自然環境・散歩のしやすさ**のほか、**動物公園全体の満足度が高い**
- ・**トイレについて「良くない」が約4割**
- ・動物園のメジャーな種(他、ウサギなどの人と距離の近い動物、タヌキなどの身近な野生動物)が人気で、**動物に関連したプログラム**への関心が高い

夢見ヶ崎動物公園でしてみたこと・していること n=418 (複数回答)



かわさき市民アンケート

(令和4(2022)年度/有効回収数=1,556)

- 対象：市内在住の満18歳以上の個人(郵送・R4年11月)
- ・コロナ禍では近隣の動物園よりも夢見を訪れた人が多かった ⇒「**身近さ**」が魅力
 - ・動物の飼育に関心があり、**動物の健康・施設の向上**を望んでいる
 - ・賑やかさよりは**落ち着いた雰囲気**が求められる

民間事業者との対話・意見収集

(平成30(2018)年度~継続的に実施)

- ・Park-PFIの導入は難しい(立地や採算面から)
- ・不安定な社会情勢による民間事業者の体力不足
- ・公益的な役割と収益機能の折り合いが課題
- ・駐車場の設置管理許可での参入検討は可能
- ・飼育や公園施設管理等における指定管理の即時参入は困難、段階的に参入を検討したい
- ・近年人件費や光熱費などが上がっているため、運営予算が厳しい

② 施設の老朽化や不足による課題

多くの施設で老朽化や、多様なニーズへ対応した整備が必要となっています。

- ・園内のバリアフリー化不足(樹木の生長による機能低下)
- ・動物展示の魅力低下、アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の整備が不十分
- ・駐輪場や駐車場の検討不足 など



③ サービス面の課題

動物を介した体験プログラム、加瀬山の自然や歴史を体験・体感できるプログラムなど来園者へのサービス面において、**夢見の特長を活かし、多様な主体と協働した取組を充実させる**必要があります。

- ・動物園の4つの役割「種の保存」、「教育・環境教育」、「調査・研究」、「レクリエーション」のうち「**教育・環境教育**」、「**レクリエーション**」に関する**公益的なサービスの不足**
- ・地域との協働のポテンシャルを活かしたイベントやプログラムの不足
- ・加瀬山の様々な文化財の保存、活用と魅力発信事業の不足

④ 持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題

夢見の魅力を維持しながら持続的な管理運営をしていくために、次のような課題へ対応する必要があります。

① 動物の飼育方針・飼育環境改善

- ・**動物園を継続し、種の保存や調査・研究に貢献するための**飼育動物種の継続計画(コレクションプラン)や、魅力的な展示及び動物の生活環境の充実が必要(環境エンリッチメントなど)

② 人材育成

- ・動物飼育に関わる専門性の高い業務・知識のノウハウの継承不足
- ・接遇スキルやレクリエーションの運営力不足(多様なニーズへの対応、サービスの質の向上)

③ 持続可能な管理運営体制の構築と新たな財源確保

- ・持続可能な管理運営のための新たな財源の確保、業務の効率化の課題など

5. 目指すべき将来像

夢見は目指すべき将来像「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」を踏まえ、市民と利用者が「いのちを感じる」場となるよう再整備を実施します。



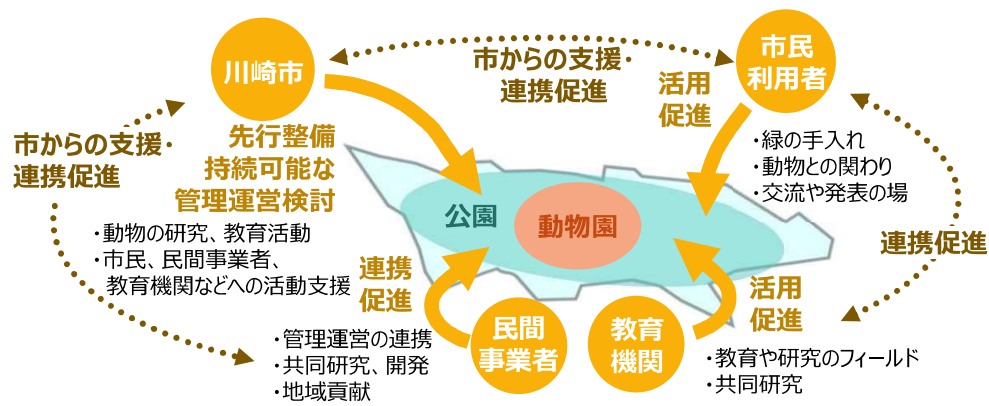
いのちを守る
園内で多様な生きものと関わることや、職員の日々の仕事は「いのちを守る」ことにつながっています。夢見での多くの気づきが、**地球環境を大切にす**る行動へとつながっていきます。

いのちの体感
動物の生態や生きものの営みを知ることは、「いのちの体感」となり、**自然や環境を自分ごととして考えるきっかけ**になります。

いのちへの共感
関わりを通じ、生きものを好きになることで、「いのちへの共感」が生まれ、**自分や他者を大切にす**る気持ちを育てます。

加瀬山に存在する自然・歴史・動物の**多彩ないのち**を、加瀬山全体として体感できる**施設整備と運営管理を実現**します。

再整備後の多様な主体による利用イメージ

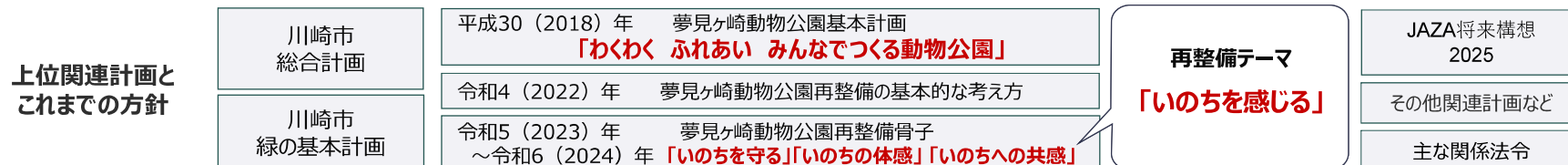


6. 再整備の基本的な考え方

9

6-1 再整備の必要性と基本的な考え方

上位関連計画におけるこれまでの方針、新たな課題や今日的な役割から導いた**再整備の必要性をふまえ、再整備の基本的な考え方**を以下に示します。



再整備により

"都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場"としての**動物公園**を創造します。

再整備の理念

- 加瀬山の豊かな自然環境や歴史を活かし、また、野生傷病鳥獣の保護と野生復帰に向けた活動を続けることにより、**環境保全と地域社会との共生について人々に伝えます。**
- 動物との関わりから、**いのちの尊さや他者への思いやりなどの自分ごと化を促します。**
- 野生動物と実際に対峙し、向き合うことにより、地球温暖化や森林破壊などの**環境問題への深い関心を育みます。**
- 来園する人々の**心と体の健康を増進し、いきいきとした他者との交流・自己実現のための活動を促進**します。
- **「多様ないのちを感じる」動物公園であり続けます。**

再整備のポイント

都市公園機能
都市公園(地区公園)としての機能と魅力の向上

まちづくり機能
持続可能な管理運営を担保し地域のまちづくりに貢献する、多様な主体との連携体制の構築

動物園機能
動物園機能をより一層活かしたいのちを感じる取組・設備の充実

基本方針
<3つの出会い>

基本方針①
緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と人の営みを体感できる

基本方針②
人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、協調・協働するすべを考えられる

基本方針③
生きものと人が出会う

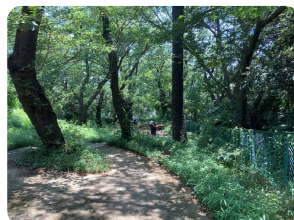
生きものとの関わりを通して、いのちの尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

6-2 「いのちを感じる」とは

加瀬山がもつ、ここにしかない「いのちを感じる」資源を、里山樹林・公園・動物園の各エリアごとに整理しました。

基本方針①

緑と人が出会う
里山樹林エリア



加瀬山の"夢見"ならではの「いのちを感じる」とは？

- 樹林に暮らす動物・鳥類・昆虫の生息環境を感じ、知ることができる
- 周囲では見られない鳥類が渡りの途中に羽を休めに立ち寄り特別な場所となっている
- 加瀬山を守ることで自然の営みを実感し、身近に生息する生きものとの共存を考える機会となる
- 鳥獣保護区が、暮らしの身近にあるという特別な環境は住民の誇りにつながる

基本方針②

人と人が出会う
公園エリア



動物園ではない動物公園として「いのちを感じる」とは？

- 公園での世代の異なる人々との関わりが、人のいのちについて気づきの機会を与えてくれる
- 樹木管理や季節の催しなど、地域との関わりが健康づくりや生きがい創出を生み出している
- 古墳・社寺など歴史資源や、年中行事を通じ、伝統や文化など人の営みにふれることができる
- 戦没者を祀る慰霊塔が、学ぶべき歴史と平和の大切さを伝えている

基本方針③

生きものと人が出会う
動物園エリア



より身近に動物に関われる夢見の「いのちを感じる」とは？

- 飼育員さんに気軽に話しかけられる、園長さんに気軽に会える恵まれた環境である
- 動物のリハビリを知り、関われる環境が、いのちの大切さを伝える言葉に重みを与える
- 都市の中で、様々な動物と出会える貴重な場である
- 夢見は身近で、いつでも、何度でも訪れて、ゆっくり、じっくりいのちと向き合うことができる



6. 再整備の基本的な考え方

6-3 「いのちを感じる」環境づくり

3つの基本方針に基づき、五感を使った「いのちを感じる」プログラムを展開しやすい環境をつくりまします。

基本方針① 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と人の営みを体感できる

里山樹林エリア

いのちを育む加瀬山の緑に親しむ

いのちを感じる取組



協働による樹木管理活動
(里山へGO! HPより)



落ち葉のコンポスト



保育園のお散歩利用



発生材を活用した解説板

整備イメージ

- 樹林地内に市民協働により管理する際の**集会所を整備**し、樹林地管理を支える**施設や休憩場所を設置**する
- 日常的な散歩・散策の際に自然の芽吹きやいのちの循環を感じ、生きものと出会う**安全管理や地域の憩いの空間づくり**を行う
- 活動で発生した自然資源を活用し、**樹林に息づく生きものや取組を紹介できる解説板を設置**する

基本方針② 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、協調・協働するすべを考えられる

公園エリア

いのちを大切にする行動につながる

いのちを感じる取組



動物が散歩できる園路



子ども達が集う遊具



支援方法の拡充



パークセンターの地域活用

整備イメージ

- 来園者や動物が公園内を**安全に散歩できる園路**や夏の暑熱環境に対応した**休憩所などの施設を整備**する
- **顔となる遊具などを中心として自然と人が集まってくる柔軟な遊びの空間を整備**する
- **市民や企業からの意見や寄付を反映した施設整備や更新**を行う
- 広場やパークセンターを**夢見の取組の発信や地域との関わりづくりなど柔軟な活用**が可能な空間として整備する

基本方針③ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

動物園エリア

いのちの鼓動に心が動く

いのちを感じる取組



いのちを伝えるサインの工夫



飼育員の解説



動物の習性を考慮した動物の展示



いのちを守る取組を身近に感じる施設

整備イメージ

- 動物を触るだけではない、**脳と心が喜ぶ「ふれあい」を提供するアニマルウェルフェアを遵守した動物展示**、動物や生息環境への理解が進む**情報発信を充実**する
- バックヤードの整備や暑熱対策など、**動く環境を充実させ、やりがいをもって働ける環境づくり**を行う
- ゆっくり動物を眺め観察することができる、**居心地よく利便性のある空間づくり**を行う
- 調理場やリハビリ施設の一部を見学できる、**いのちを守る取組を身近に感じる施設を設置**する

6-4 「いのちを感じる」プログラム

民間パートナーのノウハウを活用し、より「いのちを感じる」体験プログラムを拡充し、リピーターの増加や新たな収入源の確保を目指します。

みる きく かぐ 味 ふれる

加瀬山の環境リサーチ 自然を五感で感じる

気温・湿度・騒音・空気の味。都市に比べてなぜ自然の中は心地良いのか、五感を使って自然の大切さ、保全活動の重要性を学びます。



公園で集めた音で音楽づくり
(うめきた公園/大阪市)
(PLAT UMEKITA HPより)

樹林ボランティア
(夢見)

みる きく ふれる

加瀬山のいのちの歩みとは？ 歴史探訪と生きもの調査

昔はどんな生きものがいた？どんな暮らしをしていた？地域や人の歴史と生きものを一緒に学べる、夢見ならではの体験を目指します。



大正時代の行事をテーマとしたすごろく体験
(国立歴史民俗博物館HPより) ボランティアや加瀬山の会、大学連携により実施

昆虫教室
(広島緑化センターHPより)

みる きく

動物の得意！を披露 見て・聴いて驚き、感動する

人と暮らしてきたロバは、人に合わせて歩いてくれる。鳥は当然のように空を飛ぶ。近くで動物の得意！を観察し、動きや習性に驚き、学びます。



ロバの散歩
(京都市動物園)

バードショー
(松江フォーゲルパークHPより)
リハビリや飼育の一環として実施

みる かぐ 味

食べることは生きること！ 動物の食べものからうんちまで

エサの準備のお手伝い、エサとなる植物を育ててみる体験、同じ食べものを食べてみたり、また食べものによるうんちのちがいを学びます。



エサづくり体験
(市川市動植物園)

幻の「大うんち展」
(横浜ズーラシア)

きく かぐ

どの動物の音、においかな？ 目を閉じて楽しむ動物園

音・声・においを手がかりに、動物をあてられるかな？耳を澄まし、しっかりと嗅ぎ分け、動物の生活に思いをはせる体験をします。



動物がエサを食べる音
(夢見マールコートなど)

WWFジャパン「自然を、動物をニオイで学ぶ！くんくん planet in スーラシア」
啓発の取組として実施

みる

いのちを守る最前線を見学 保護鳥獣の観察・職員との交流

野生保護鳥獣の観察や、職員の職場見学など、夢見のいのちを守る取組に触れ、自分には何ができるか？考えるきっかけづくりをします。



保護鳥獣の観察
バックヤードツアー
(猛禽類医学研究所 HPより)

動物園まつりでの
バックヤードツアー (夢見)

7-1 全体の空間構成

現状の空間構成を活かすことで、樹林など環境への負担や造成など整備の負担を軽減します。

里山樹林 エリア

緑と人が出会う

樹林や地域の生きものを観察・実感できる

【再整備を検討する主な施設】

- ① 樹林管理の拠点
- ② 階段・散策路
- ③ 児童公園
- ④ 駐車場



里山体験教室イメージ
(里山へGO! HPより)

④ 交流の 拠点

動物園にきた！というワクワク感を演出するサイン、公園エリアから動物園エリアへの誘導サインや案内板



動物モチーフのサイン
(のんほいパーク)



エントランスの演出
(盛岡市動物公園)

植栽

- ・既存の緑陰を活かしながら、必要に応じて**剪定の実施**
- ・施設や公園利用にあたって支障となる樹木を**適切な位置に更新**
- ・樹林管理活動で出た発生材の**有効活用の検討**

公園 エリア

人と人が出会う

家族と、友人と、地域の人と交流する

【再整備を検討する主な施設】

- ⑤ 「う回路」入口・パークセンター南側
- ⑥ 駐車場からの入口
- ⑦ 展望広場
- ⑧ エントランスのロータリー
- ⑨ 慰霊塔付近
- ⑩ 芝生広場
- ⑪ 慰霊塔前広場



遊具配置のイメージ

動線

- ・ジョギングなどの通過、散策と“たまり場”の**バランスに配慮した園路**
- ・安全に楽しみながら歩ける**舗装の整備**
- ・災害時などにおける緊急車両などの進入路や避難経路などに配慮した舗装、サイン整備

⑦ 憩いの拠点

- ・富士山、街の景色の**眺望を楽しめる空間**
- ・シンボル性の高いデザインの**トイレやゲート**
- ・眺望を楽しみながら休みたいくなる**休憩施設**



ベンチ・テーブルの配置
(虎深用水広場)



富士見デッキの眺望 (夢見)

動物園 エリア

生きものと人が出会う

動物園の動物たちと出会い・学び・楽しみ・驚く

【再整備を検討する主な施設】
⑫ 広場、動物展示、動物病院、調理場、隔離室など



動物病院イメージ



動物舎イメージ

凡例

- 拠点
- 眺望
- ▲ 歴史的資源
- ▲ アプローチ・散策路

公園全体

- ・園内に散在する**歴史的資源**や**加瀬山の自然の保全**
- ・園内各所に飼育動物、加瀬山の野生動物・昆虫などのイラスト、樹林管理の**発生材を活用した作品**などを設置



発生材アート作品 (吉野ヶ里遺跡)

⑩ にぎわいの拠点



キッチンカーの出店 (夢見)



芝生広場 (夢見)

芝生広場での遊び、広い舗装空間でのイベントなどの利便性向上のための**園路整備や休憩施設**

7.いのちを感じる空間構成と主な施設

7-2 動線

ジョギングなどの通過、散策と“たまり場”のバランスに配慮した園路とします。また、安全に楽しみながら歩けるよう舗装などの整備を行います。

富士見コース

- 加瀬山の自然と歴史を伝え、動物園エリアへの誘いのサインなどの整備
- 歩きながらペンギン、シマウマなど動物の歩幅を体感したり、あと何mで公園！など楽しく歩きたくなる仕掛け



百段階段コース

- 階段の昇り降り、心身の健康に貢献する動線
- 現状維持とする

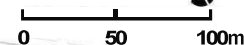
散策路

- 「寄り道」気分の自然散策路
- 加瀬山の会と協働で安全な散策路を維持
- 野鳥や昆虫の観察会、鳴き声を聞くなどのプログラムを実施



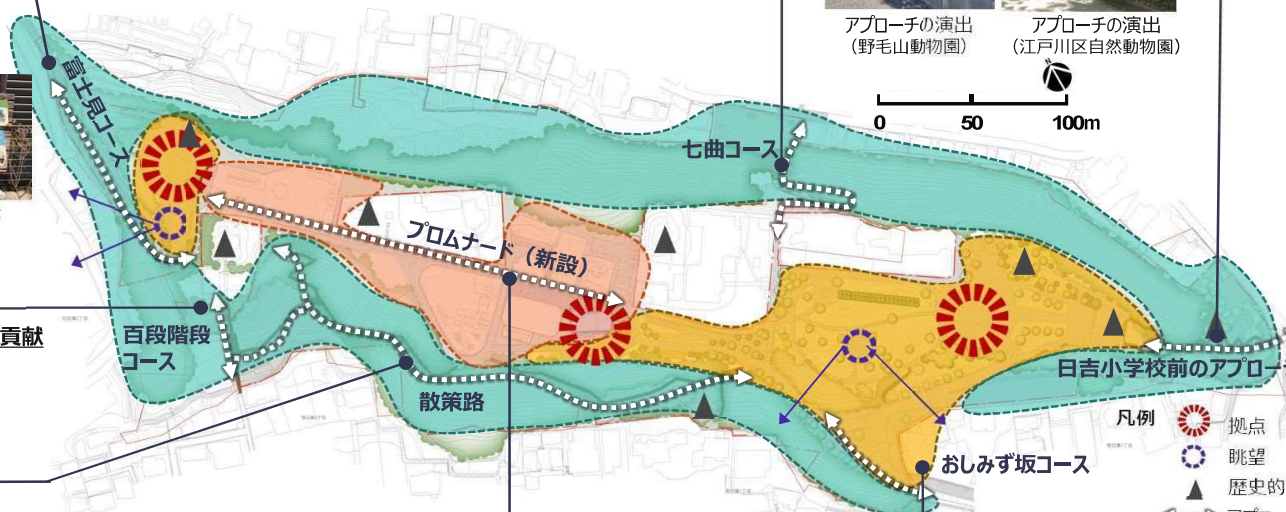
七曲コース

- 踏面の安全性 (勾配の改善、滑りにくさなど) を考慮し利用しやすい階段として改修
- 展示動物の彫刻や間伐材などの発生材を利用したアート作品を設置するなど動物園公園へ向かうワクワク感を醸成できる空間づくり



日吉小学校前のアプローチ

- 周辺樹林地の適正な管理を市民協働で進めていく場
- 加瀬山の歴史や自然への思いを巡らせる空間づくり
- 動線沿いに、加瀬山の歴史や夢見でみられる動植物・昆虫などの彫刻などを適宜配置



プロムナード (新設)

- 高木の列植など動物園エリアだけでなく慰霊塔から西側の展望広場へつながる夢見のシンボルプロムナードとしての整備
- 動物園エリアの骨格となるメイン動線として幅員4~6mを確保



おしみず坂コース

- 自動車の唯一のアプローチとして、自動車からでも動物園にきたことが一目でわかるオブジェなどを設置



防災・非常時

災害時などにおける緊急車両などの進入路の確保や避難経路などに配慮した舗装、サイン整備